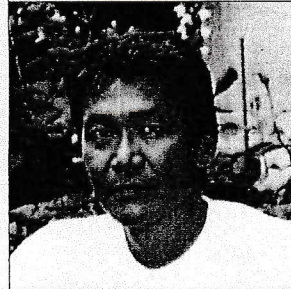


### 同窓生シリーズ

(39)



第25回生 鈴木裕太氏

保健体育科教諭

- 昭和53年 日本体育大学卒業
- 同年4月 都立多摩高校(定時制)
- 昭和56年 都立豊島高校(全日制)
- 昭和62年 都立新宿高校(全日制)
- 平成11年 都立井草高校(全日制)

12年間の新宿高校生活  
この春12年間の母校での勤務を終え、井草高校に勤務となりました。昭和62年に新宿高校に勤務が決まった時、長年の夢が叶ったような嬉しさで満ちました。しかし、新宿は都内でも有名な体育的行事が多い学校なので、責任と重圧を感じながらの勤務となりました。新宿で野球を教えたいという気持ちで先行してしまいましたが、臨海教室を始め、スキー教室・運動会・水泳大会・マラソン大会・そして球技大会に至るまで、全てに恩師たちが残

した良き伝統を守らねばなりません。幸いにも体育科はじめ先生方の暖かい理解のもと、どれも一杯取り組める環境で働かせていただきました。臨海教室の館山寮が家のよう利用させていただき、ペンキを塗ったり、修理したり、電気がつかなくなると慌てたり、水が不足して困ったりと多くの思い出を残してくれました。決して便利な宿舎ではありませんが、生徒たちも泊4日を大家族で過ごし、働きの生活

を経験して、新宿高生らしい大人に成長していくのを実感しました。ちょうどこの時期は野球部の夏季大会の最中で、勝ち進むと館山から神宮球場に出かけ、またその日のうちに寮に戻った事もしばしば。忙しくも充実した夏休みを過ごしていました。

硬式野球部  
硬式野球部員たちは、卒業生教員が顧問であり更に監督をしている事に喜んでくれ、私の指導にも従順で信頼してついで来てくれました。甲子園の夢が果たせるような指

導が出来るはずもないのに、監督で居続けたことを申し訳なく思います。ただ、遠いはずの甲子園までの距離と力の差を実感し、あと一歩と言わぬまでも少し近づけたと感じてくれたら幸いです。グラウンドでは勝つことを目標に練習を重ねてきました。その根底には私の教員としての姿勢がありました。野球だけやっつけてはダメです。勉強は当然の事として、委員会活動・学校行事・HR活動にも積極的であり、さらに家に帰れば家族の一員として存在価値のある働きをしなければなりません。幅広く、多くを経験し、そのどれも問題解決が出来る野球部員が揃った時、技術を越えた実力を発揮するから強豪にも勝てるのです。精神力野球とは言わないが、そんな姿勢を持った野球部員が社会に出て活

躍してほしい。彼らはそんな私の期待によく応え、頑張ってくれました。本当に感謝しています。4月からの異動で、涙とともに別れた現2・3年生と一緒に野球が出来ない事が悔しくなりません。彼らは私の野球に取り組む姿勢を良く理解してくれています。私の12年間の指導の良い部分だけを後輩に受け継ぎ、さらなる発展をお願いしたい。

『自由』と新宿高校  
また好奇心旺盛な私は、野球だけでなく不慣れな仕事にも手を出し、多くを経験することが出来ました。意欲のある者が自主的に行動する事を見守ってくれる学校の校風を利用し、私はこの新宿で2度目の成長をさせていただきました。『自由』その本来の姿を生徒に教え込むのが私の仕事だったはずなのに、自由を謳

歌したのは私でした。新宿の『自由』は、その使い方方で大きな価値を發揮してくれそうです。今後の新宿高校は『自由』をどう捉えて実践していくかで伝統を残しながらも発展するかが決まります。私は外からではありませんが、大家族の一員として母校『大好きな新宿高校』を見守っています。いいと思っています。

